

第 15 次共同研究に係る加盟機関及び域内における実践

(上川教育研修センター)

研究内容 1

「授業改善」及び「授業改善を促す校内研究」支援の在り方に関わる学校支援の取組について

(1) 授業改善のための支援

毎年、所員 2 名・研究協力校 3 校による授業公開及び授業検証を行い、管内の教育発展に努めている。

ア 指導と評価の一体化の促進

「目標・課題・まとめ・評価が整合している授業」の実践

小学 4 年社会科、「災害の防止に努める関係機関の働きと自分の生活とのつながりを考える学習」で、児童一人一人が主体的に課題解決に取り組むことができるように学習課題を設定し、目標及び学習課題と正対したまとめを行った。

【指導目標】安全を守るための関係機関の働きや地域の人々の工夫や努力を、地域の人々の生活と関連付けて考え、適切に表現することができる。

【課題】消防団の仕事はなぜ必要なのか考えよう。

【まとめ】消防署を手助けし、地域をより安全に守るために必要だから。

【評価規準】安全を守るための関係機関の働きや地域の人々の工夫や努力を消防署見学の根拠を基に考えたり、資料や地域の人々の生活と関連付けたりして考え、適切に表現している。

このように目標・課題・まとめ・評価を整合させることで、学習内容を明確にし、確実に定着させることができた。

イ 思考力を育む授業づくりの促進

「育みたい思考力・判断力・表現力を明確化し、言語活動を位置付ける学習過程」の実践

小学 3 年国語科、「役割を果たしながら進行に沿って話し合う学習」では、何を思考させるのか、どのように思考を促すのかを明確にした 3 段階の言語活動を設定した。

段階① 個人思考：よくない例のビデオを視聴し、話合いの課題点に気付かせる。

段階② 集団思考：課題点を交流し、出てきた課題を分類することで、話合いの改善案を明確にする。

段階③ 思考のまとめ：自分たちが考えた改善案と関係付けながら、よい例のビデオを視聴する。

これらの言語活動を通して、個人思考で気付いた話合いの課題点を、集団思考で改善案にまとめ、思考のまとめで司会や提案などの役割や、進行に沿って話し合うことよさに気付かせることができた。

ウ カリキュラム改善の視点を踏まえた授業づくりの促進

研修講座「年度の重点目標の具現化を目指す校内研修」の実施

校内研修推進上の留意点や、授業研究の方法、参観の視点、研究協議を深める手立てなどについて講義や実践交流を行い、実践的指導力を高める校内研修の在り方について研修を深めている。



(2)校内研究活性化に向けた支援

ア 目的やねらいを踏まえた校内研究の促進

研修講座「年度の重点目標の具現化を目指す校内研修」の実施

毎年、同一校から講義講師（教頭）・提言講師（研究部長）・授業講師（公開授業教諭）の選出を依頼し、校内研修の進め方・研究の実際・授業実践など、一連の校内研究の進め方について理解を深めることができるように研修講座内容の工夫を図っている。

イ 協働的な校内研究体制構築の促進

研修講座参加者による研究協議参観

研修講座参加者が、授業参観後、授業公開校の研究協議に参加することにより、研究協議の実施方法の工夫について学ぶことができる。

【旭川市小学校の研究協議の例】

①全体説明（授業者によるねらい等の説明）→②個人による思考整理（良かった点・参考になった点、質問点・改善点を付箋に記入）→③グループ協議（拡大指導案に付箋を視点ごとに分けて貼る）→④全体協議（グループの発表を受け、全体で課題や改善策などを協議する。）



研究内容 2

地域の実情やニーズ、教員のライフステージに応じた「教員研修」支援の在り方に関わる取組について

教員研修の充実に関する支援

ア 専門性の向上に資する講師情報の共有促進

・多くの学校訪問や研究会に携わる指導主事から得た情報と、研修センター独自の講師人材バンクをもとに講座内容に合った講師を選定している。授業講師は30代、提言講師は40代、講義講師は教頭や大学からといった基準を大まかに設定し、ライフステージに応じた研修講座の運営に長く関わってもらえるようにしている。

イ 教員のライフステージに応じた研修の促進

・研修講座開催要項に「研修講座受講のための参考資料」として、研修講座内容と教職経験年数の効果的な相関を示し、講座を選択する際の参考となるように工夫している。

ウ 研修講座の実施、運営の充実促進

- ・年間カレンダーを提示し、自校の予定と比べながら参加を考えることができるように工夫している。また、参加しやすいように、長期休業中に多くの講座を設定している。（H27年度：36講座、10パソコン講座開設）
- ・2日日程の講座においては、1日目は理論編として「講義→提言→研究交流」の流れを基本に行い、2日目は「小学校の研究授業参観→研究協議→中学校の研究授業参観→研究協議」を基本に行っている。
- ・研修講座実施後、受講者にアンケートを行い、開催時期や講座内容等について選択式回答や自由記述で意見を募り、その結果を次年度講座運営の改善に役立てている。また、昨年度より受講2～3か月後に回答していただく「受講後アンケート」を取り入れ、講座内容の活用度合いを調べ、講座内容の改善を図っている。
- ・毎月、「講座情報」を全ての小中学校にメールで案内し、随時、受講申し込みを受け付けている。
- ・講座の様子やアンケートの結果などを「上川教育研修センターだより」に掲載している。
- ・上記の内容をWEBからも閲覧可能としている。
- ・研修事業を3カ年計画で繰り返し、講座内容を大きく見直している。
- ・所長、副所長が校長会、教頭会、PTA事務局長会議、市教研、上教研などを通じて、広く参加者の呼びかけを行っている。